

新宮山彦ぐるーぷ第1889回

持経宿不動明王像作製者縁者の来訪と

持経宿改築記念として園城寺から揮毫寄贈の扁額・掲額他

◇実施日：平成28年07月28日(木) 曇り一時小雨、22℃
◇参加者：ブロンズ鑄造家：水島直春・眞理ご夫妻。

伊賀焼陶芸家：新(あたらし)歓嗣、山口 計。

玉岡憲明・明、山上皓一郎、川島 功、濱野兼吉、

生熊敏男・千満子、畑林秀味・清子、梶野照雄。

計14名。

持経宿・不動堂の不動明王像の作者・水島弘一(ひろかず)氏は、釈迦ヶ岳・釈迦如来像・設立発起人の水嶋富三郎さんが父親で、そのことを知り、前田勇一師が制作依頼されたと聞いている。

この度、山口 計氏の計らいで、ご子息の水島直春氏が水島弘一氏遺作の不動明王像拝顔に来訪されることになり、交流のある伊賀焼・陶芸家の新 歓嗣氏と来宿・来堂されました。

新宮組9名は、川島・畑林・玉岡車に分乗し、10時待合せの池原スポーツ公園駐車場に9時半過ぎに到着、トイレ休憩していると、新氏運転で山口氏・水島氏一行(4名)が直ぐに到着。

早速、参加者の簡略な紹介をして、玉岡憲明氏よりご挨拶して頂きました。

持経宿来訪後、青岸渡寺(高木亮英副住職)に立寄りお帰りとの事から、全員揃ったので早目の10時前に持経宿へ。

川島(25日)は、池郷林道から白谷林道を下見に行き問題なく走行出来たので、その後大雨が降っていない様なので、走行に支障無いと思いつつも、濡れた路面をゆっくり走りする。

石ヤ塔展望台で小休止し眺望して頂く。

林道ゲートに着くと、和佐又の岩本泉治氏の南奥駈道ツアー(本日・行仙宿泊、翌日玉置山迄)の一行(4名)が身支度中で、同乗出

来ないが荷物のみ持経宿迄運び、空身で歩いて貰う便宜を計った。林道林道を辿ると、林道の補修作業されている方(2名)が居られ、「新宮山彦ぐるーぷです、ご苦労様です」と労いの声をかけると「1台先行した」と言われた。持経宿に近づくにつれ、山霧が漂いやや見通しが悪くなる。持経宿に着くと梶野車が先着。



石ヤ塔展望台にて



新、水島氏ご夫妻



山口氏導師で勤行

畑林、生熊さんは、不動堂内の清掃とシキミ並びにお供えを盆菓子に取替えて頂く。その間に幟旗を立てる。

導師：山口氏、法螺師：山口・新両氏にて、全員で不動明王像に勤行する。陶芸家の新氏は、千光寺の奥駈行に5回位参加しておられ、何回か持経宿に宿泊されているそうです。

水島直春氏は、もしかすると私が作製に携わっているかも知れないと話されていたので、読経後ゆっくりと不動明王像と対面し検分して頂いた。

不動堂勤行後、千年松祠へと移動して勤行に赴く、残った方には(玉岡親子、生熊敏、畑林秀氏)、テーブル等の昼食準備をして頂く。

梶野氏は、会で導入した登録型デジタルトランシーバー(5W・免許無し)の応答テスト実施のため、1人平治宿へ向われる。



千年松祠で勤行



昼食懇談中



千年松の勤行を終え、宿内でお客様には古道弁当にて昼食。

水島直春氏が不動明王像検分の結果、水島弘一氏の木型を基に本体を鑄造し、光背と岩座は直春氏が新規製作したブロンズ鑄造の不動明王像であるとの事から、水島弘一氏と直春氏の合作・不動明王像である事が判明した。

水島直春氏からは、ブロンズ鑄造像なので、年1回布で空拭きすると光沢で出て来て長持ちするので、空拭きする様に教わった。新氏からは、伊賀焼の小仏像3体を寄贈して下さい、一体は、不動堂内に奉納安置した。

不動堂内の不動明王像の脇仏は、鑄造・釈迦如来像(山口弘作、山上皓一郎氏奉納)、木彫・釈迦如来像(村上満登作、玉岡憲明氏奉納)、村上満登作・奉納の「多門(多聞)天・持国天、増長天・広目天」の四天王が安置されていた。

岩本氏一行は、12時前に持経宿に到着され、外のベンチで昼食。林道を歩いて来る間に山ヒルにやられたとのこと、梅雨明けとは言え、夕立等の日々が続いているからだろう。

水島、新、山口氏は、青岸渡寺に立寄られる事から、不動堂前で記念撮影後、慌しく持経宿を12時40分に下山された。

先般、モノレールを無償贈呈して下さいました謝礼に、天台寺門宗

一千百五十年慶讃法要に参列の際に、園城寺執事長・福家俊彦様に扁額揮毫をお願いしたところ、有難く快諾を頂き、この度2枚揮毫「山静如太古」(山静かなること太古の如し)賜り、表装・額に入れ、一架は贈呈者、一架は昨年の持経宿改築記念として、持経宿内に扁額を掲額させて頂いた。

この漢詩表題の意味は「幽邃(ゆうすい)な山には、太古の昔から変わることはない静かな時が流れている。悠久の時の流れに身をおくとき、なんと私たちは時間に追われ、人に使われ、俗事にあくせくするばかりであろうか。」とのこと。

平治宿間の梶野氏とのデジタルトランシーバーの応答は、数度共感度良好であった。



水島・新氏等と記念撮影

持経宿内に扁額掲額

本日の作業者

小雨が降り出し、梶野氏の戻りを待ち、本日作業者の記念撮影を済ませ、持経宿14時半前に下山した。新宮は晴天。

行動タイム

新宮 8:25→9:35 池原スポーツ公園(9:40合流)9:50→10:10 石ヤ
塔展望台 10:20→10:45 持経宿→11:00 不動堂勤行 11:10→11:25
千年松祠勤行 11:35→11:50 持経宿(昼食)12:25→水島氏一行下山
12:40→12:50 扁額掲額作業他 14:00→(14:10 梶野氏戻る)持経宿
14:25→15:05 池原スポーツ公園 15:10→16:20 新宮。(記 川島)

午前9時にスポーツ公園に到着。トイレを済ませて持経宿に向かう。林道ゲートまでの間に5カ所の落石を除け、飛び出した枝を2カ所で切る。ゲートを過ぎて一つ目の舗装を過ぎたところで林道整備中の2名に出会う。昨年(2019年)の9月にもお会いした方だった。整備のお礼と、10時過ぎに3〜4台上がってくることを伝えて別れた。

午前10時、持経宿着。小屋内のマットにかじられた跡がある。またネズミが出ているようだ。先日持ち降ろして洗濯した絨毯とレンガ20枚ほどを降ろし、汲み置きの水を入れ替えるため水場に降りる。水場から戻ってポリタンを降ろしていると新宮組が到着した。



持経宿水場の状況



かじられた跡が



千年檜で

不動堂で勤行。その後、千年檜祠まで行った。

千年檜で無線機1台を川島さんに手渡し、もう一台をもって平治宿へ向かった。持経宿と平治宿間は直線で約1.8km。この間で通話テストを行った。

12時8分、平治宿に到着。小屋前で持経宿と通話テスト、明瞭に通話できた。お湯を沸かそうとポリタンを見たが、全て空だ

った。一個を背負子に付けて水場へ降りる。最後の岩場は濡れて滑りやすく、慎重に降りた。

水場は水量充分。水場でも無線機の通話テストをした。少し山陰になるが、問題なく通話できる。漏斗が5m程下流に落ちていたのを拾い上げて小屋に向かう。脚立の少し下まで上がってきたが、突然、背負子の肩ベルトが外れてしまった。かきめていた鳩目が錆びて分解していた。



平治宿到着



平治宿水場



ベルトが外れた背負子

小屋に戻って昼食後、午後1時15分に出発、頭に当たる枝を切りながら持経宿へ向かう。

中又尾根分岐手前から、細かい雨が降り出した。林道が見えた地点で右に斜面を降りて林道を歩いて持経宿に向かった。

午後2時過ぎに持経宿に到着、集合写真を撮って解散となったが、小さなヒルが数匹、枝から落ちてきたようで腕やズボンにくっついていった。雨が降っている時は頭上にも注意が必要だ。



平治宿裏の倒木



下山前全員で



ズボンに山ビル

行動タイム

池原 9:15→10:00 持経宿 11:15→千年檜 11:26→12:08 平治宿→
12:20 水場→12:38 平治宿・昼食 13:15→14:05 持経宿
(記 梶野)